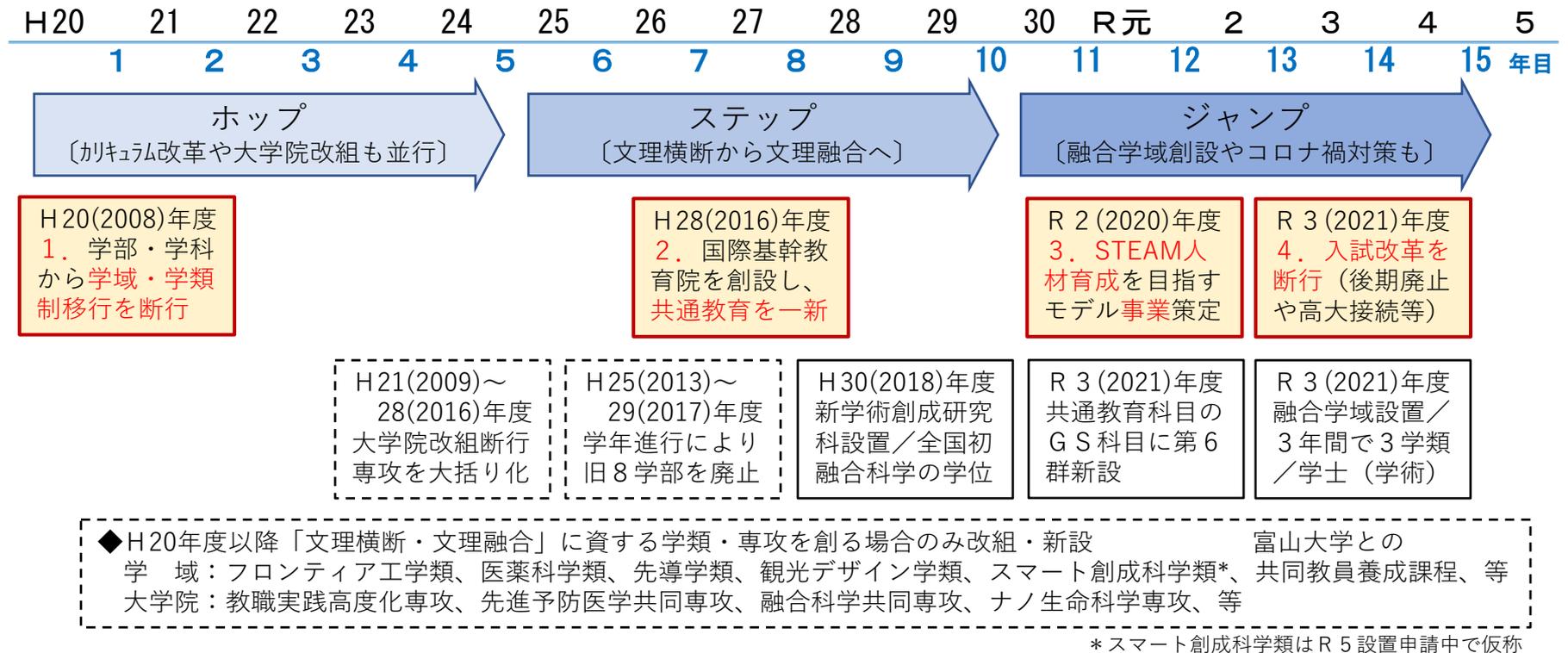


中央教育審議会大学分科会 第2回大学振興部会 R 4. 7. 11

説明：学長補佐（教育改革・学修支援）・教学マネジメントセンター長・教授 片岡 邦重
学長補佐（入試・学生募集・高大院接続・大学院改革）・教授 谷内 通

金沢大学未来ビジョン『志』 オール金沢大学で「未来知」により社会に貢献する
あるべき姿〔教育〕社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”の輩出

0. 目次に代えて - 15年間の足跡 -



★ R 3 学生生活実態調査（対象：学域学生全員、回収：54%・4,167名）
Q：全てを総合して金沢大学学生としての満足度は？ A：満足している 94%

金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、
世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、
「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組む。

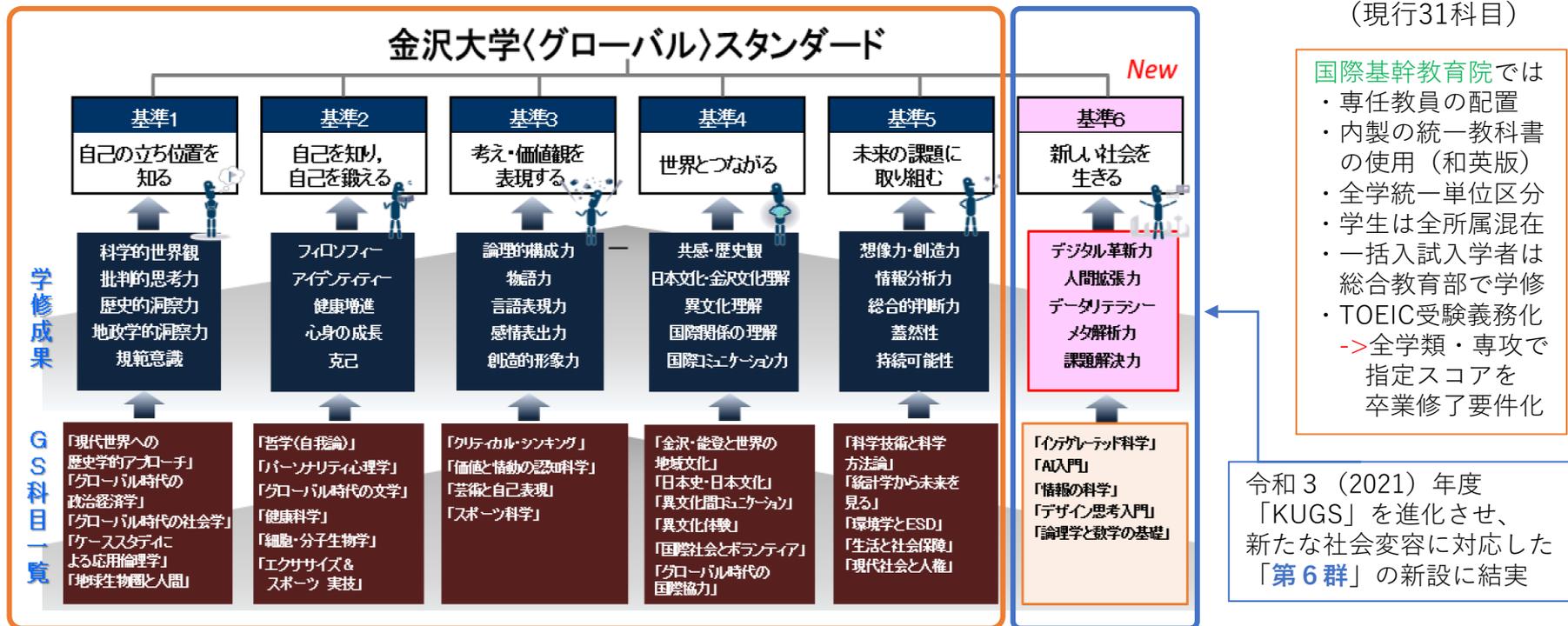
1. 学部・学科制から学域・学類制への移行を断行〔平成20（2008）年度〕

- ◆ 8学部25学科 ⇒ 3学域16学類 ⇒ (H30) 3学域17学類 ⇒ 15年後(R5) 4学域20学類へ
- ・ 背景：①どこを志願すれば本当に自分が学びたい分野が学べるのか、正確なイメージが困難化
②社会的要請の高い新領域での教育研究に、積極的に取り組むことを妨げる要因の場合も
- ・ 特長：①学生は、学部より大きな「学域」・学科より大きな「学類」に籍を置く〈大括り化〉
②教員も、学部より大きな「研究域」・学科より大きな「系」等に籍を置く〈教教分離〉
- ・ 評価：①幅広い内容と柔軟な制度を持つ教育体制を構築〈学生募集単位は半数に：他大学も追従へ〉
②教育研究領域の新設、入学者選抜の改革、共通教育の刷新、Late Specialization等に進展
⇒ 新学術創成研究科〔修士・博士（融合科学）H30〕、融合学域〔学士（学術）R3〕の設置も
- ◆ 前例踏襲や囲い込みを排して本学の「**間断なき改革文化**」を醸成し、現在の『**未来知**』創成へ
- ◇ 同年開始の「ノートパソコン必携」がコロナ禍でも威力を発揮、令和2年に2週間で遠隔授業開始
- ・ 現在：不確実性が高く将来の予測が困難なVUCA時代を先取りし、『**未来知**』創造人材を養成
Volatility（ボラティリティ：変動性）、Uncertainty（アンサートゥンティ：不確実性）、
Complexity（コムプレキシティ：複雑性）、Ambiguity（アムビグイティ：曖昧性） ⇒ 「文理融合教育」の進化

金沢大学は、自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識集約型社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく実社会における様々な困難に立ち向かっていける“金沢大学ブランド”人材の育成を教育上の大きな目標とし、この人材像を「金沢大学<グローバル>スタンダード」(KUGS)と定義。

2. 国際基幹教育院を創設するとともに、共通教育(リベラルアーツ)科目を一新〔平成28(2016)年度〕

◆リベラルアーツ教育の質保証のため、全学出動方式の約3,000科目を統廃合し、全学統一のGS科目に集約(現行31科目)



- ・現在：共通教育科目の標準的な要修得単位数は36単位で、導入科目(3単位)、GS科目(15単位)、GS言語科目(8単位)、基礎科目又は初習言語科目(8単位)、自由履修科目(2単位)。

金沢大学は、文部科学省大学教育再生戦略推進費の知識集約型社会を支える人材育成事業に「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」を申請し、メニュー1：文理横断・学修の幅を広げる教育プログラムと幹事校で採択（H2～6）

3. 社会課題を解決へと導く、STEAM人材の育成を目指すモデル事業を策定〔令和2（2020）年度〕

◆文理融合型教育の拡充と学生の人間力形成を教育改革の実績に、4つの実施項目を策定

【項目①】文理融合の新たな教育組織の設置「融合学域先導学類」を新設

| | | |
|--|-------------|---|
| 知識集約型社会での位置付け | 突破力・人間力・創出力 | 学域の理念と目標 |
| 融合学域：融合した専門知と鋭敏な飛躍知を併せ持つ 令和3年度 先導学類：社会変革先導人材へ 4年度 観光デザイン学類：観光価値創出人材へ 5年度 スマート創成科学類*：未来科学創成人材へ | 先見性・多様性・柔軟性 | 広範な分野にわたる教養と文理融合の知見を醸成し、課題発見・解決の知を展開することで、地域と世界に貢献することを理念とし、知識集約型社会で中核的リーダーシップを発揮できるイノベーション人材を養成することを目的とする。 |

* スマート創成科学類はR5設置申請中で仮称

【項目②】全学生を対象にSTEAM教育を必修化し、専門教育でもリベラルアーツ教育を拡充

◇共通教育のGS科目に第6群「新しい社会を生きる」を新設し、3単位必修に



| | | | |
|-----------|------------------------|----------|-------------|
| Science | Technology・Engineering | Arts | Mathematics |
| インテグレート科学 | AI入門、情報の科学 | デザイン思考入門 | 論理学と数学の基礎 |

◇専門教育の学域GS科目（学域を構成する専門分野俯瞰科目・デザイン科目含む）を6～8単位必修に

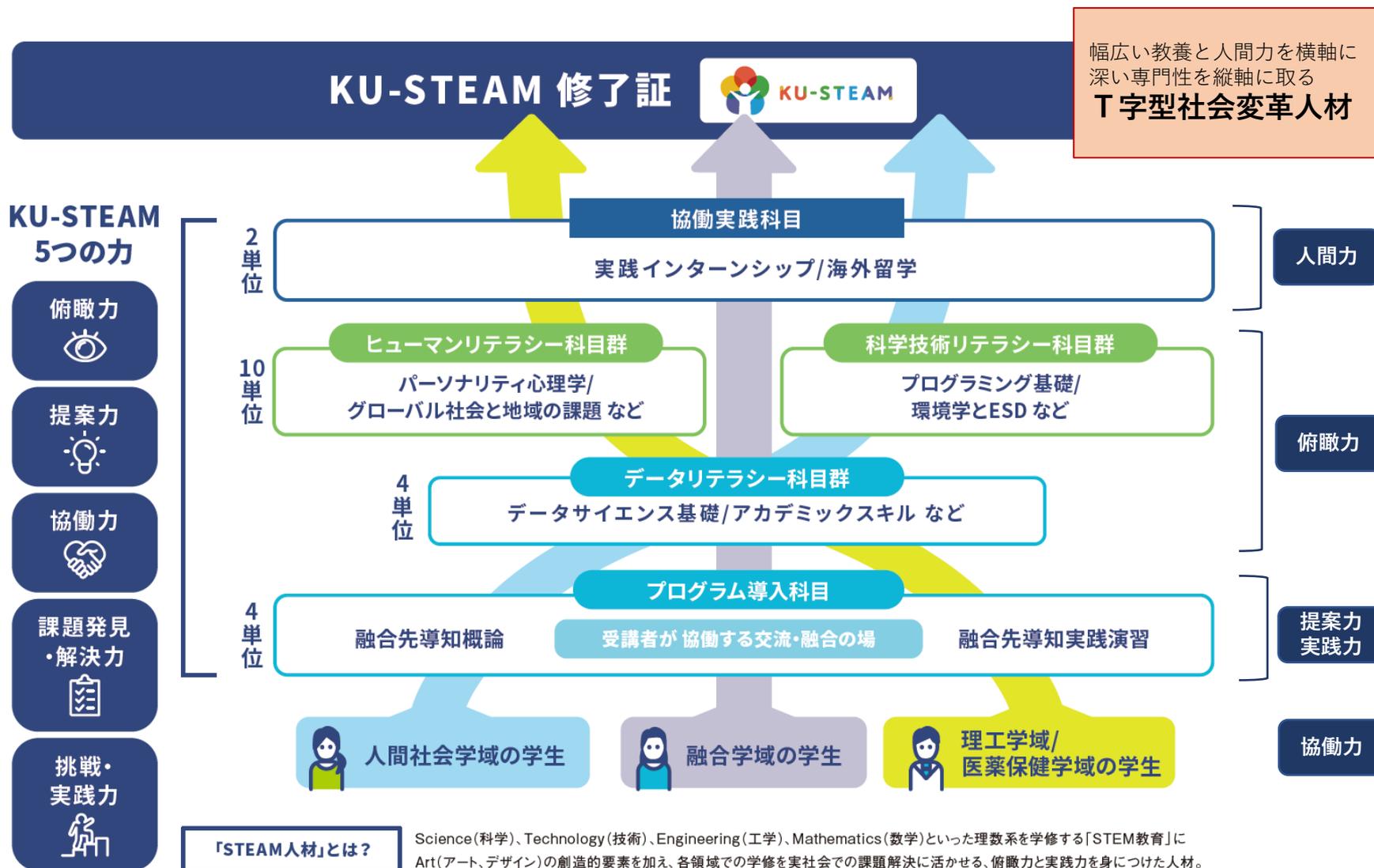


| | |
|----------|----------------------------------|
| 融合学域の例 | アカデミックスキル、プレゼン・ディベート論、イノベーション基礎、 |
| 5科目6単位必修 | 数理・データサイエンス基礎及び演習（2単位）、デザイン思考 |

■大学院教育でも大学院GS科目を全研究科で拡充〔令和4（2022）年度入学者から〕

| | |
|---|--|
| 博士前期・修士課程 大学院GS基盤科目・4単位必修 〔研究者倫理、デザイン、イノベーション、+a〕 | 博士後期・博士課程 大学院GS発展科目・4単位必修 〔社会課題、異分野協働、国際実践、+a〕 |
|---|--|

【項目③】 全学域学生を対象に特別プログラム「先導STEAM人材育成プログラム」を開設



【項目④】学修者本位の教育の実現を目指して「**教学マネジメントセンター**」を設置

◇学長補佐をセンター長に、教授2名・特任助教1名を配置し、
FD・SD、教学IR、教育DX、知識集約事業等を所掌



令和4（2022）年度
本学の教育研究組織の最上位に
「**未来創成教育環**」を設置

学修者本位教育への転換と
「**自ら学び、自ら育む**」教育環境を提供

- ・国際基幹教育院 (H28)
- ・高大接続コア・センター (H30)
- ・教学マネジメントセンター (R2)
- ・数理・データサイエンス・AI教育センター (R4) 他

【事業全体の目標達成状況】 (R4：3年目開始時)

- ①融合学域の設置 => R3学域と先導学類設置、R4観光デザイン学類設置、R5スマート創成科学類設置申請
 - ・融合学域の志願倍率（前期日程・一般選抜 ←本学は後期日程なし）
 - 先導学類：初年度3.5倍、2年目3.0倍、観光デザイン学類：初年度3.0倍（いずれも学内屈指）
- ②先導STEAM人材育成プログラム (KU-STEAM) の新設
 - ・計画前倒しで、R3後期から導入科目3科目開講・約100名受講、ラーニング・コミュニティ形成の整備
 - ・R4全学域対象プログラム導入科目「融合先導知実践演習」の抽選倍率2倍超
 - =>事業参画学生：R3実績1,864名、R4実績3,031名（1年次1,065名、2年次以上1,966名）
 - ・R4参画教員を68名に拡充 ・パンフを配布、履修ガイダンスや説明会を連続的に開催
- ③学士課程のリベラルアーツ科目である共通教育GS科目と学域GS専門科目の拡充
 - ・数理・データサイエンス・AI教育、デザイン思考等、新しいリベラルアーツ教育を全学展開
 - ・共通教育GS科目第6群は延べ3,917名が受講 ・大学院全研究科へ必修科目配置し接続
- ④全学的な教育改革を先導する**教学マネジメントセンター**の設置
 - ・R2設置、R3からFD・SD及び教学IRを刷新し、FD研修は13回開催・1,149名参加

金沢大学は、KUGSに適う資質と能力の開花を少なくとも確かな可能性として示すだけでなく、なによりもこのような人材になろうとする高い志と強い気概を備えた人物の入学を期待する。

4. 文理分断の高校教育を文理融合の大学教育に接続すべく入試改革を断行〔令和3（2021）年度〕

- ◆金沢大学を第1志望とする多様な志願者をより広範に受け入れると共に、質の高い入学者を確保
- ・背景：2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（H30.11.26付中教審答申）を踏まえて、『基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持ち、その知識や技能を活用でき、ジレンマを克服することも含めたコミュニケーション能力を持ち、自律的に責任ある行動をとれる人材』を
- ・内容：①後期日程廃止、②特別選抜（と一般選抜一括入試の）募集人員を入学定員の30%に目標設定、③個別学力検査で要3教科・科目、④個別学力検査配点60%以上かつ英語配点20%以上、⑤主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価（調査書の主体性等評価：詳細非公表）、⑥高大接続プログラムの開設とその修了者へのKUGS特別入試への出願資格付与（詳細次頁）、⑦金沢大学コンテストの実施とその授賞者への超然特別入試への出願資格付与（詳細次頁）、⑧学類独自の新たな特別選抜の導入、⑨英語外部試験スコアの活用、⑩編入学定員の拡大、他。

【一般選抜】 ■ 前期日程 / 文系傾斜・理系傾斜、3学類一括、2専攻併願もあり

【特別選抜】 ■ KUGS特別入試 / 総合型選抜、学校推薦型選抜、英語総合選抜 # 高大接続プログラム修了を課す

■ 超然特別入試 / A-lympiad 選抜、超然文学選抜 * 金沢大学コンテスト受賞を課す

■ 薬学類・高大院接続入試、社会人選抜、帰国生徒選抜、国際バカロレア入試

■ 在外留学生推薦入試、私費外国人留学生入試、国費外国人留学生選抜（本人選択型・優先配置枠型）

R4入試よりグローバル研修キャンパス(GSC)でも可

【平素の努力のプロセスを評価】 KUGS高大接続プログラム受講から「KUGS特別入試」への流れ

KUGS 高大接続プログラム

高校生等を対象に、本学教員によるセミナー等さまざまな探究的学びの機会を提供しています。将来社会をけん引するために必要な能力を得られるようなプログラムを多数ラインナップ。興味・関心に応じて自由に受講できます。受講後に2つの課題レポートを提出し、評価を受け、基準を満たした受講者には「KUGS特別入試」の出願資格を付与します。



※1 KUGS特別入試への出願資格を得るためには、「①高校での学び」及び「②大学での学び」を提出し、両方も評価基準を満たす必要があります(提出順はどちらが先でも構いません)。受験する年度の8月31日までに①及び②のレポート提出が必要。評価基準を満たなかった場合は、評価を受けてから2週間以内に再チャレンジ可能です。 ※2 学類指定あり

【特異な才能の発掘】 数学的又は文学的に特異な才能の発掘から「超然特別入試」への流れ

金沢大学コンテスト



ある分野において特異な才能を持つ学生を見だし、その志を励ますために「超然文学賞」と「日本数学A-lympiad」を実施しています。各コンテストの入賞者には「超然特別入試」の出願資格を付与します。

日本数学A-lympiad

本学が主催する数学コンテスト。本コンテストは、同じ学校に在籍する3～4人がチームになり、現実の世界的課題を背景として作成された実社会に起こりうる問題(英文)を読み解き、数学の力を利用して社会にとってより良い解決案を提案することを競う大会。本コンテストで入賞した上位2チームを、本学はオランダで開催される世界大会(Math A-lympiad)に日本代表として派遣。

超然文学賞

本学が主催する文学コンテスト。本コンテストは小説と短歌の2部門を有し、「言葉の力」で人間の新しい可能性を切り拓くことのできる人材を発見し、その能力を称え、励ますことが目的。

